

中小企業景況調査結果(平成30年10～12月期)

中小企業の業況は、小幅な低下状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業99社を対象に景況調査を実施し、このほど平成30年10～12月期実績と平成31年1～3月期見通しについての調査結果(回答数84社、回答率85%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

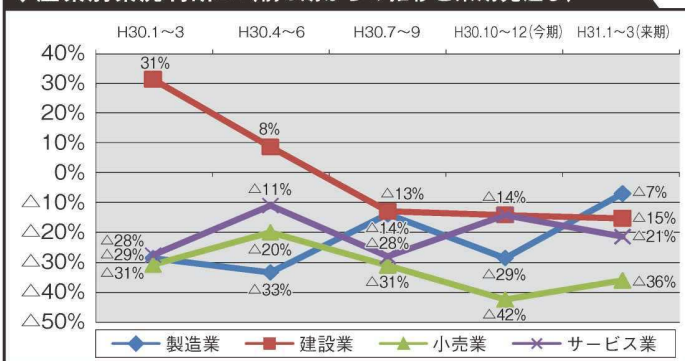
全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲24%から▲26%と僅かに低下した。業種別にみると、製造業は▲14%から▲29%と低下しており、来期は▲7%と上昇の見通しである。建設業は▲13%から▲14%とほぼ横ばいであり、来期も▲15%とほぼ横ばいの見込みである。小売業は▲31%から▲42%と低下しており、来期は▲36%とややマイナス幅縮小の見通しである。サービス業は▲28%から▲14%と上昇しており、来期は▲21%と低下の見通しである。今回調査では、全業種で売上が上昇傾向にあり、仕入単価では小売業を除く業種で、大幅な上昇傾向が見られた。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の12%、来期設備投資を実施予定の企業は10%であった。経営上の問題点については、需要の停滞がいずれの業種でも上位に挙げられていた。また、建設業では熟練技術者の確保難、サービス業では従業員の確保難が最も多い問題点となっているほか、大企業を含む新規参入による競争の激化がうかがえる。

◆業況DI値(今期の状況)

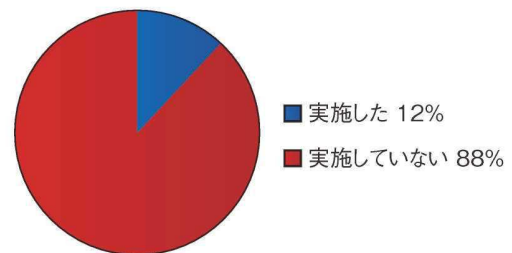
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△26%	↘	△16%	↗	△9%	↗	34%	↗	△27%	↗	△5%	↘
製造業	△29%	↘	7%	↗	0%	↗	79%	↗	△21%	↘	0%	↗
建設業	△14%	↘	△8%	↗	△15%	↗	57%	↗	△14%	↗	14%	↘
小売業	△42%	↘	△35%	↗	△12%	↗	△8%	↘	△46%	↘	△8%	↘
サービス業	△14%	↗	△11%	↗	△4%	↗	35%	↗	△18%	↗	△15%	↘

◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)

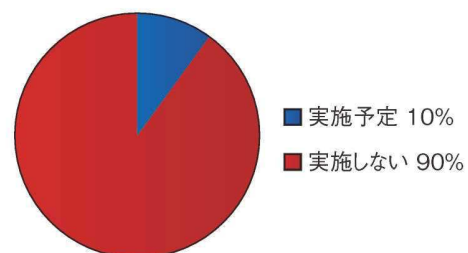


◆新規設備投資(今期実施・来期計画)

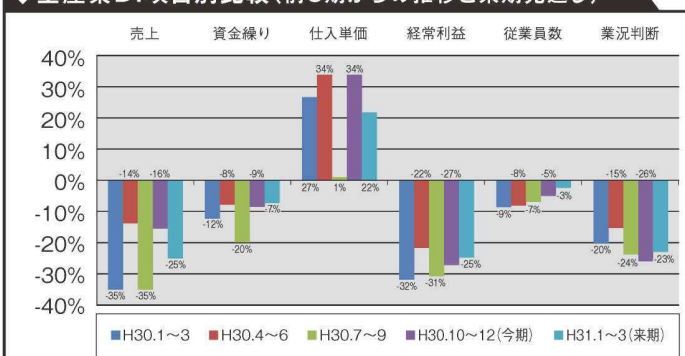
【今期設備投資】



【来期設備投資計画】



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 20.0%	熟練技術者の確保難 17.1%	需要の停滞 15.9%	従業員の確保難 15.3%
2位	原材料価格の上昇 16.7%	官公需要の停滞 11.4%	消費者ニーズの変化への対応 15.9%	大企業の進出による競争の激化 12.5%
3位	生産設備の不足・老朽化 13.3%	新規参入業者の増加 11.4%	購買力の他地域への流出 12.7%	需要の停滞 11.1%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から 減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。